

1 学習評価についての基本的な考え方

学習評価については、カリキュラム・マネジメントの中で、教育課程や学習・指導方法の評価と結び付け、さらに教育課程や学習・指導の改善に発展・展開させ、授業改善及び組織運営の改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが大切です。



解説動画

◆ 「指導と評価の一体化」の実現

今回の学習指導要領の改訂では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に沿って再整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確化されました。これにより、教師が「子どもたちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されています。

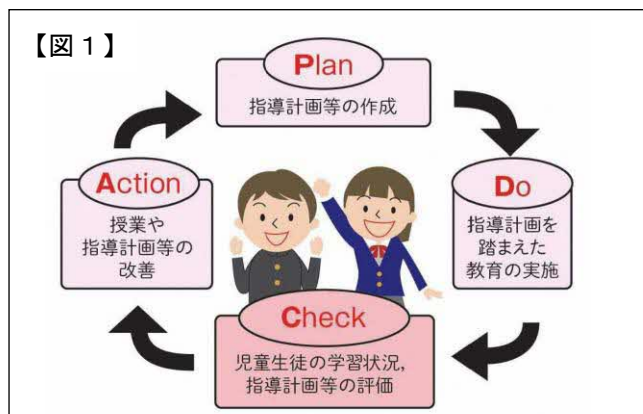
また、児童や学校、地域の実態を適切に把握した上で教育課程を編成し、学校全体で教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の取組も、「指導と評価の一体化」のための取組と言えます。

◆ カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校における教育活動は、学習指導要領等に従い、児童や地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下、指導計画に基づく授業として展開されます。

そのため、各学校では、日々の授業で児童の学習状況を評価し、その結果を児童の学習や、教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことが大切です。

このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。（図1）



◆ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することにより、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切になります。

観点別学習状況の評価の観点は、各教科における目標と表裏一体の関係にあるので、各教科において、育成すべき資質・能力を踏まえて目標を検討する際には、評価の観点の在り方と一貫性をもって検討を進めていくことが大切です。

例えば、「主体的に学習に取り組む態度」については、児童が学びの見通しをもって、粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという、主体的な学びの過程の実現に向かっていくかどうかという観点から、学習内容に対する児童の関心・意欲・態度等を見取り、評価していく必要があります。

こうした姿を見取るためには、児童が主体的に学習に取り組む場面を設定していく必要があります。主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善が重要になります。

◆ 学習評価の改善の基本的な方向性

資質・能力のバランスのとれた学習評価を行うためには、論述やレポートの作成、グループでの話し合い等、多様な活動により、多面的・多角的な評価を行っていくことが大切です。こうした評価を行う中で、教師には、学習にどのような価値があるのかを認め、児童自身にもその意味に気付かせていくことが求められます。また、教師には、児童の学習の質を捉えることのできる目を培っていくことができるよう、研修の充実等を図り、評価者としての能力の向上を図ることが重要です。

